

# 友好の庭園修復完了

## 米リバサイド「結心庭」 仙台市訪問団報告

仙台市の国際姉妹都市、米カリフォルニア州リバサイド市の日本庭園「結心庭」を修復した県内の造園技術者と市民団体の会員が12日、仙台市役所で作業完了を報告した。訪問団は「友好の思いが実を結び、素晴らしい庭園に生まれ変わった」と話した。

県造園建設業協会の造園技術者4人が1月28日～2月3日に現地で作業し、仙台市の市民団体「仙台リバサイド交流連絡会」の会員3人が支援した。現地でのボランティアも手伝った。修復では庭門や富士型の築山に至る飛び石を新たに造り、「心」の字をかたどった枯池の護岸を組み直した。日本で制作した石灯笼とししおどしを設置し、園内の樹木の枝切りもした。

結心庭は2007年、交流連絡会が中心となって造成し、同市に寄贈した。敷地780平方メートル。会員らが手入れをしてきたが、経

年劣化が進み、仙台市が初めて造園技術者を派遣した。

太白区の造園業者「植耕」の鎌田耕社長ら5人と交流連絡会の鈴木健治会長ら2人は12日、パネルを示して高橋新悦副市長に修復を報告した。

鎌田社長は「不慣れた現地の道具を使ったり、思うように材料が調達できなかったりと苦労はあったが、本格的な日本庭園に仕上がった」と話した。高橋副市長は「造園技術と交流の心が合わさり、立派な庭園になった」と感謝した。

修復はリバサイド市議会でも報告され、現地で3月8日、お披露目の会が開かれる。



高橋副市長(右)に庭園の修復を報告する(左から)鈴木会長と鎌田社長